

輸出事業計画

※申請者名：株式会社指宿やさいの王国、品目：さつまいも・キャベツ・レタス

1. 輸出における現状と課題

株式会社指宿やさいの王国は、指宿市山川地区で、レタス・キャベツ・さつまいもなどをおもに生産している農事法人である。鹿児島県は農業を主な産業としており、2021年の農業産出額は全国で第2位である。温暖な気候を利用し、野菜や花卉、茶などの生産が盛んである。

さつまいもについては、基腐病が発生している地域ではあるが、これを最小限にとどめるため土壌消毒などの取組を行い、他地域ではまねできない規模での生産が可能となっている。鹿児島県において基腐病が沈静化した後は、生産量が増加し、鹿児島県産かんしょの価格競争が激化することも予想されるため、高付加価値化による収入確保の取組が必要となる。

キャベツは特に、加工・業務用の冬～春キャベツの需要が国内外問わず伸びている。しかしながら、価格の乱高下も激しく経営の安定化が難しい背景がある。中長期的な国内市場の縮小トレンドもあり、輸出を通じて海外市場の取り込み・安定的な販売価格の維持を実現することが重要である。現在、端境期ニーズを捉えた大手小売店向けの輸出に取り組んでおり、5月～6月に香港・シンガポールに輸出を開始している。レタスについても、志布志港よりの試験輸出を開始した。

2. 輸出事業計画の取組内容

さつまいもについては、輸出上のロスが大きな課題であることから、さつまいもに適した物流体系が構築できるよう商社と連携してコンテナを確保し、テスト輸出を実施する。輸送・着荷した後の品質評価を実施し、現地に到着後の品質差が無いかなど確認する。さつまいもの加工品として、焼き芋輸出の可能性を探る。焼き芋の品質に違いが出ないよう、国内加工業者と連携し製造した後、冷凍輸出し、現地でのニーズに合わせて焼き時間や、温度調整を行い、よりニーズに合った加工をすることで輸出事業化を行う。

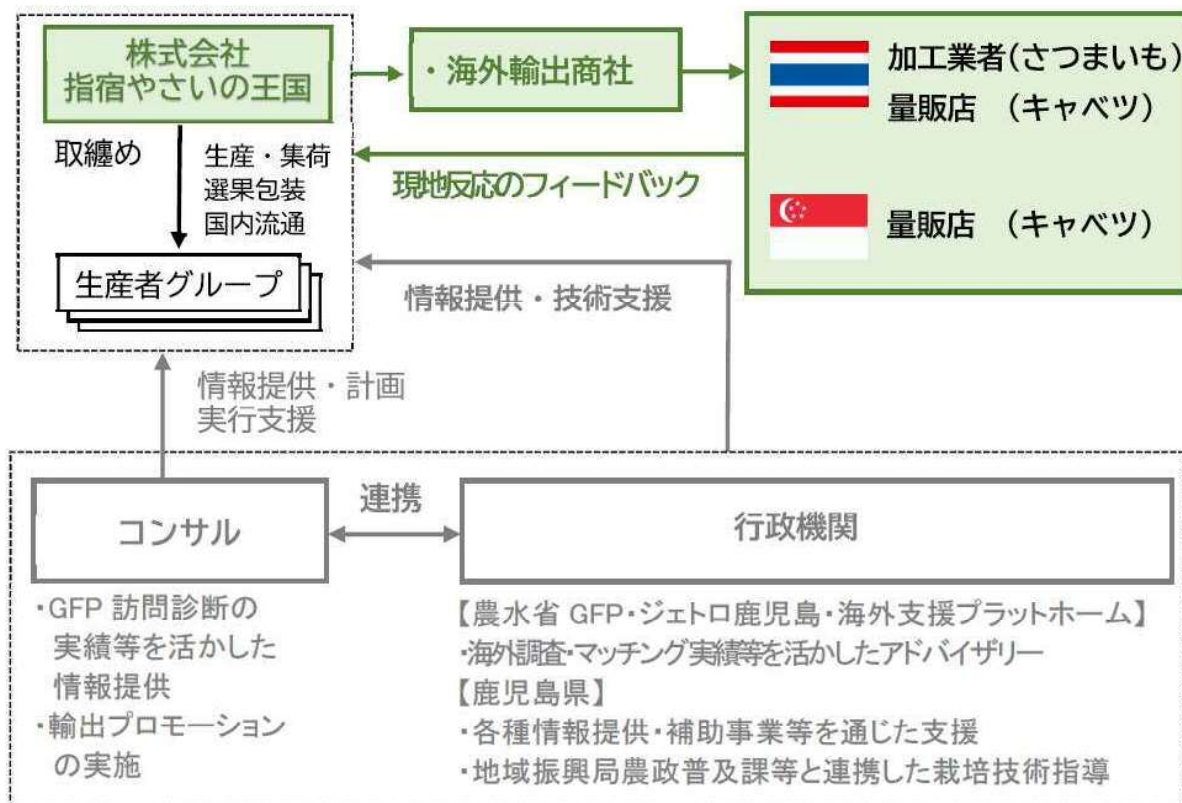
現在、志布志港から試験的に輸出を行っているレタスについては、ロットの確保をしつつ輸出ルートを確認する。

年間を通じた産地間リレー出荷を実現するため、北海道（帯広）に農地を借受け、レタス・キャベツの生産体制の構築を行い横展開する。

将来、年間を通じた輸出を目標とし、輸出商社と連携を通じて、品質のよいレタス・キャベツの販路拡大、販売量の拡大の可能性を探りながら試験輸出を開始する。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制

当社は輸出実績に乏しいため、輸出コンサル会社と連携して、現地ニーズの把握、新規販路開拓を行う。農林水産省GFP・JETRO鹿児島・鹿児島県庁とも連携しながら、世界情勢の変化の激しさに鑑みアジャイル的に短いスパンでのPDCAサイクルを回しながら輸出事業計画の確実な実行・検証を進める。



4. 輸出目標額

【輸出品目:さつまいも】

		現状 (令和3年度見込み)	目標年 (令和7年度)
鹿児島県指宿市	輸出額(千円)	—	10,000
	輸出先国	—	タイ
	生産量(t)	974	1,500

【輸出品目:キャベツ】

		現状 (令和3年度見込み)	目標年 (令和7年度)
鹿児島県指宿市	輸出額(千円)	3,500	35,000
	輸出先国	シンガポール・香港	シンガポール・香港・タイ
	生産量(t)	1,930	2,800

【輸出品目:レタス】

		現状 (令和3年度見込み)	目標年 (令和7年度)
鹿児島県指宿市	輸出額(千円)	—	5,000
	輸出先国	—	シンガポール・香港・タイ
	生産量(t)	1,234	1,470